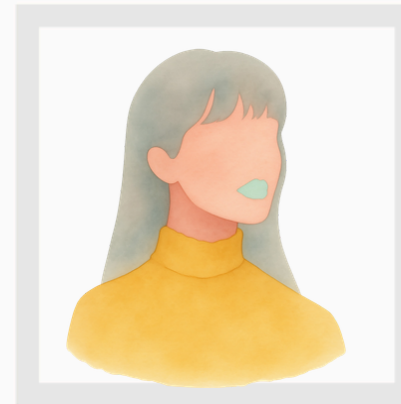


横浜読書会konkonの1周年 オリジナル読書ノート

読書家プロフィール



特に好きなジャンル

エッセイ・SF・日本文学・童話

特に好きな作家

宮沢賢治

よく読む時間・よく読む場所

21時頃

リビング

好きな言葉

花は半開を看、酒は微酔に飲む。

マイ・ベスト



書名

著者

手袋を買いに

新美南吉

赤毛のアン

L. M. モンゴメリ

秘密の花園

F・H・バーネット

アンネの日記

アンネ・フランク

銀河鉄道の夜

宮沢賢治

書き込み見本

わたしの本棚

一冊読み終えるごとに、背表紙にタイトルを書きましょう。



[illegible]

積読リスト

書名 細雪
著者 谷崎潤一郎
お迎えした日 2026年 1月12日

☒ 書名 人間椅子
著者 江戸川乱歩 お迎えした日 2026年 1月12日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

* 読み終えたらチェックを入れて、レビューページへ。

☐	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名	
	著者	お迎えした日

☐	書名	
	著者	お迎えした日

□	書名			
	著者			お迎えした日

☐	書名	
	著者	お迎えした日

☐	書名	
	著者	お迎えした日

読書記録



また読みたい

☒ ぜひ ☐ 一期一会

読了日

2026年10月15日

書名

銀河鉄道の夜

著者

宮沢賢治

あらすじ

孤独を感じながら暮らすジョバンニは、ある夜、親友カムパネルラとともに銀河鉄道に乗り、不思議な旅に出る。星や鳥や乗客たちとの出会いを通して、ほんとうの幸せや、だれかのために生きることの意味を見つめていく物語。

感想

最初は幻想的で美しい物語だと思って読んでいたけれど、読み進めるうちに、さみしさや祈りのような気持ちが。ジョバンニとカムパネルラの会話は静かでやさしいのに、その奥にある思いがとても深い「ほんとうの幸せ」とは何かをまっすぐ問いかけてくる作品で、子どものころに読むのと大人になってから読むのとでは、きっと受け取り方が変わる本だと思った。読後は少し切ないのに、心の奥が澄んでいくような余韻があった。

この本の魅力を一言で伝えるなら？

やさしくて切ない、星空をめぐる“ほんとうの幸せ”の物語。

印象的なシーン

ジョバンニとカムパネルラが銀河鉄道の窓から、きらめく星空や天の川を見つめながら旅をしている場面。

夢の中のようで美しいのに、どこか胸がしめつけられるような静けさがあって、とても印象に残った。

また、旅の途中で出会う人たちとのやりとりから、この物語がただの幻想ではなく、生きることや別れを描いているのだと感じた。

p.

読み終わって考えたこと

本当のやさしさは、自分のことだけでなく、相手の幸せを願うことなのかもしれないと思った。

ジョバンニの旅は、楽しい冒険というより、自分の生き方を見つめ直す時間だったように思う。

誰かのために何ができるのか、そして「みんなの幸せ」を願う気持ちはどれほど尊いのかを考えさせられた。

読んだあと、自分の大切な人のことを静かに思い浮かべたくなる作品だった。

心に残った言葉や文章

「みんながほんとうにしあわせになるなら、ぼくのからだなんか百ぺん灼いてもかまわない。」

ジョバンニのまっすぐな思いが表れていて、この作品の中心にある願いが詰まっている言葉だと思った。

p.

殿堂入りの本

評価



ジャンル

幻想文学・児童文学

書名

銀河鉄道の夜

選んだ理由 美しい銀河の情景と、静かな切なさが忘れられない。読むたびに「ほんとうの幸せ」について違うことを考えさせられる一冊。

評価



ジャンル

童文学・少女小説

書名

小公女

選んだ理由 つらい状況の中でも気高さややさしさを失わないセーラの姿に心を打たれる。クラシカルで可憐な雰囲気も魅力で、読むたびに背筋がすっと伸びる本。

評価



ジャンル

詩集・近代文学

書名

みだれ髪

選んだ理由 ことばの響きが美しく、情熱や繊細さがまっすぐ伝わってくる。短い詩の中に強い感情と美意識が込められていて、何度も読み返したくなる。

読書会の本紹介台本

書名（著者）：『銀河鉄道の夜』／宮沢賢治

一言でいうと：美しく切ない、星空を旅しながら「ほんとうの幸せ」を探す本。

手に取った理由：

有名な作品なので一度きちんと読んでみたかったことと、銀河を走る列車という幻想的な世界観に惹かれて手に取りました。

あらすじ：孤独を抱える少年ジョバンニは、銀河のお祭りの夜、不思議な列車に

乗り込みます。そこには親友のカムパネルラがいて、二人は天の川に沿ってさまざまな場所を巡り、人々と出会います。列車の旅の中で「幸せとは何か」「誰かのために生きるとはどういうことか」という問いへ向かっていきます。

一番の押しポイント：

きらきらした幻想世界と、深いテーマがあるところ。
星、すすき、りんどう、水晶の河原など、景色は夢のように美しいのに、その奥には孤独や別れがあります。特に後半でジョバンニたちが「ほんとうのさいわい」について考える場面が、この作品の核だと思います。
子ども向けの物語として読める一方で、大人になって読むと「自分にとっての幸せ」「人を思うこと」について考えさせられるところが魅力です。

どんな人におすすめしたいか：

幻想的な物語や星空が好きな人。静かで余韻の残る小説を読みたい人。そして、「幸せについて」少し立ち止まって考えてみたい人に読んでほしいです。